

## ロバート・マブロ氏の訃報に想う

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所  
常務理事 首席研究員  
小山 堅

8月2日、元・オックスフォードエネルギー研究所所長で、世界的に著名な石油問題の専門家であるロバート・マブロ氏が逝去された。マブロ氏は1934年、エジプト・アレキサンドリアの生まれであり、81歳でのご逝去となった。筆者はマブロ氏から多くの薫陶を受けたものの一人として、その生前のご恩顧を思い、謹んでご冥福をお祈りしたい。

マブロ氏は、まぎれもなくエネルギー研究、とりわけ石油市場研究の分野で一時代を画した偉大な専門家であった。世界で最も著名なエネルギー専門シンクタンクの一つ、オックスフォードエネルギー研究所を1982年に設立し、初代の所長としてその職を2003年まで務め、その発展に多大な貢献を果たした。マブロ氏はそのエネルギー研究に対する貢献等によって、1995年に大英帝国勲章(CBE)を受章、国際エネルギー経済学会や産油国・OPECなどから多くのAwardを受賞している。

マブロ氏が専門家として最も偉大な貢献を果たした分野は石油市場の研究であり、産油国や国際石油企業に関わる研究であった。オックスフォードエネルギー研究所の設立にさかのぼる1970年代には、Oxford Energy Policy Clubや現在まで続く世界的に有名なOxford Energy Seminar等を立ち上げ、その研究活動を開始していたが、この時期は1970年代の石油危機の時代であり、石油問題はエネルギー研究のまさにど真ん中にあった。マブロ氏は石油産業におけるその膨大なハイレベル人脈を活かしながら、世界の石油市場研究の中心に座り、原油価格の分析、OPEC政策等に関する多数の優れた著作と論文を発表し続けた。上述の多数の受章・受賞はまさにその貢献が世界から認められてきたことを示している。

筆者のマブロ氏との本格的な交流は、筆者が1991年に第13回Oxford Energy Seminarに参加した時から始まった。当時は参加者が70名を超え、スピーカーは国営石油会社・国際石油会社のトップが務めるなど、ハイレベルの講演・議論が2週間に亘って続き、非常に中身の濃いセミナーであった。マブロ氏は、セミナー冒頭で(恒例となっているのだが)参加者全員を紹介するため一人一人の履歴を全て語りて見せ、皆の驚きを誘っていた。セミナーではマブロ氏が常に議論の中心にいて、その幅広くレベルの高い人脈にも圧倒されたことがまざまざと記憶に残っている。

その後も石油問題を中心に研究を続けた筆者にとって、マブロ氏はまさに生きた教科書

であり、偉大な教師であり続けた。オックスフォードやロンドンを訪問する度、あるいは海外での国際会議でお会いする度、またマブロ氏が日本を訪問する度、筆者はマブロ氏にその時の石油市場の現状分析と将来の展望に関して、様々な質問を投げかけ、議論を行う機会を得てきた。当時のマブロ氏は第一線の専門家として極めて多忙であったにもかかわらず、常に筆者との議論の機会に真摯に臨んで下さり、独特のなまりのある早口の英語で、時には厳しく、時にはユーモアを交え、そして時にはシニカルな語り口で、豊富な経験に基づく知見を惜しみなく筆者に分け与えて下さった。

筆者が弊所から 2 年間の留学の機会を得た時、筆者は博士号取得のため英国ダンディー大学を留学先として選択した。マブロ氏は、留学の際には自身の運営するオックスフォードエネルギー研究所を筆者が選ぶものと考えていた節があり、筆者のダンディー大学留学以降は、面談・意見交換の度に、なぜ自分のところに来なかったのか、と冗談交じりで質問されることになった。それだけ、筆者との関わりを大事に思っていて下さったことを改めて思い、感謝しつつ、留学先としては行けなかったことを申し訳なく思ってきたことも思い出される。

マブロ氏は、近年は体調が振るわず、オックスフォードエネルギー研究所の行事にもあまり顔を出されてこなかったと聞く。専門家としての最も華々しい活躍の時期は過去のものとなっていたが、その見識・経験・洞察は今でも、いや今だからこそ極めて貴重なものとなっていたように感じる。それは、現在の国際石油市場が、マブロ氏が第一線で活躍されていた頃に全く引けを取らないレベルで激動の時期を迎えているからである。そして、その激動の背景には、1970 年代から 1980 年代にかけて見られた国際石油市場のダイナミズムとある面で共通・類似の点もあるからである。

米国で進むシェール革命と従来にない供給弾力性を備えたシェールオイル生産とその影響、市場シェア戦略を重視し価格下支え政策を放棄した OPEC とその将来、経済制裁解除後のイランのプレゼンスの高まり、そのイランとのライバル関係を意識し国内改革政策を大胆に進めようとしているサウジアラビアの行方、原油価格低下に対応した国際石油会社・国営石油会社の対応と戦略、等の今日の石油市場を分析するにあたって最も重要な問題について、歴史的な視点からマブロ氏の知見を得ることができれば非常に有意義であったことは間違いない。

そのご逝去で、マブロ氏から直接教えを受ける機会は失われることとなった。今日のエネルギー問題を考える上でも非常に残念である。しかし、マブロ氏の知見・洞察が全て失われることは無い。それらを踏まえた上で、オックスフォードエネルギー研究所がエネルギー研究の発展を続けており、そして世界中にマブロ氏の研究に刺激を受け、薫陶を受けた人脈が存在しているからである。今後も彼の偉大な知見を踏まえ、そしてそれをさらに発展させていくことが求められている。それを通して、エネルギー問題の分析と課題解決に向けた取り組みをさらに進めていくことが重要である。終わりに、改めてマブロ氏のご逝去を悼み、ご冥福をお祈りしたい。

以上